ふくし TIMES
http://www.knsyk.jp
福祉タイムズ
ともしび運動
8
2009 No. 693

〈写真・菊地信夫〉

無理しなくていいんだよ

犯罪や交通事故などで、ある日突然、大切な家族の命が奪われてしまう。残された家族は、深い悲しみや絶望感、自責の念だけではなく、周囲の無理解な言動やふるまいにも傷つき自分を見失い、生きること自体を辛く感じてしまう日々が続く。

そんな被害者遺族を支援する被害者支援自助グループ「ピア・神奈川」の代表を務める渡辺治重（はるえ）さん（63歳）もその一人だった。

「がんばって」「早く立ち直りなさい」という周囲からの言葉は遺族に重くのしかかり、誰にも理解してもらえないことでさらに心を閉ざしてしまう。

「求めているのは本当に想いをわかってくれる人からの“辛かったね、無理しなくていいんだよ”の言葉。そう言ってもらえることで責めつづけていた自分を許せるようになる。本当の悲しみや辛さを共有できる仲間と、気兼ねなく泣いたり笑ったり出来る場所が必要」と渡辺さんは言う。

訪ねてくる遺族の話を聞いていると思わず抱きしめ、一緒に涙を流してしまうという渡辺さん。頭で考えるよりも先に、体が動いてしまうと照れながら話してくれた。その瞳は人をあたたかく包み込むようなやさしさで溢れていた。

CONTENTS

特集
地域とともに創るサービスへ …… 2
NEWS&TOPICS
かながわ犯罪被害者サポートステーション開所ほか …… 4
福祉人材確保定着・最前線 …… 5
でかけてみませんか …… 6
連載
子どもたちがのびのびと育つために－第5回－ … 8
県社協のひろば
第8回かながわ高齢者福祉研究大会報告ほか …10
かながわHOT情報
七沢会・大和（大和市）……12

地域とともに創るサービスへ

～地域密着型サービス運営推進会議の取組みから～

特集

介護が必要になっても、本人がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切にし、住み慣れた地域で暮らし続けることを支える、「地域密着型サービス」では、地域住民等の参加による運営推進会議を設置し、地域とともに創るサービスを目指しています。

今号では、この「運営推進会議」を活かした取り組みを紹介します。

平成十八年に介護保険制度の改定で生まれた地域密着型サービスでは、事業所運営への地域の関係者の参加、事業所による利用者の抱え込みを防止、サービスの質の確保をねらいとして「運営推進会議（以下、推進会議）」を設置し、二ヶ月に一回以上の開催をすることとなっています。推進会議では、利用者・家族、地域住民、地域包括支援センター、行政等の幅広い地域の関係者が参加し、事業所の運営に対する助言や地域との交流を促進する役割が期待されています。

この推進会議のメンバーの声を活かした取り組みについて、川崎市幸区のＮＰＯ法人「楽」の小規模多機能型居宅介護「ひつじ雲」の事例からみてみます。

サービスの理解をしてもらう

小規模多機能型居宅介護（以下、小規模多機能）」（＊）は、地域密着型サービスのひとつで利用者の希望に応じて「通い」を中心に、「宿泊」「訪問」を組み合わせて、自宅での継続した生活のために必要な支援を提供するサービスです。

ひつじ雲では、登録者定員二十名（現在、十八名登録）で、通い十名、泊まり四名の定員、訪問を必要に応じ対応しています。

ひつじ雲の推進会議では、利用者家族、民生委員や自治会役員、法人理事長、事業所管理者、行政、地域包括支援センター（以下、地域包括）がメンバーとなり、利用者の状況や、外部評価の報告・改善への助言、情報交換などが行われています。

推進会議の開催にあたり、地域の協力を得るまでのことを、理事長の柴田範子さんは、「この地域に長く住んでいたわけでもなく、外部の者ばかりで事業所を立ちあげました。事業所が地域に根ざしていなかったため、理解されるまでには時間がかかりました。推進会議に参加してもらうために、何度か自治会に足を運びました」と

ひつじ雲では、民家を改修した建物で家庭的な雰囲気の中、サービスが提供されています

話します。自治会への説明を重ね、自治会の役員でもある民生委員にメンバーとして参加してもらうことにつながりました。

さらに、推進会議のメンバーに、事業所のサービス内容をよく理解してもらい、併せて利用者との交流もできるよう、一緒に食事をとってもらうことを企画しています。

事業所を支える推進会議

ひつじ雲では、利用者の支援に職員が悩んでいることや様々な意見がでていることについて、推進会議で、事例検討を行っています。

事例検討の際メンバーには、家族の立場で考えて意見交換をしてほしいことを伝えます。

運営推進会議では、メンバー同士の情報交換が行われます

柴田さんは、「事業所内でも日頃から本人・家族の立場にたってケアのあり方について振り返り、話し合いをしていますが、推進会議での外部の客観的な視点からの意見は、新たな振り返りや気づきにつながっています。メンバーは評価者ではなく、事業所を助けてくれる存在と考え意見をもらいます」と話します。職員の悩みを一緒に考えて解決策を導き出し、より良いサービスを利用者に提供するきっかけになっていることがうかがえます。

また、ひつじ雲では、地域の高齢者向けに、事業所のある町内会周辺での食事会を開催するにあたり、運営推進会議を通じて地域との新たなつながりができたことで、利用者が住民と交流する機会が生まれています。多くの高齢者に参加してもらうため自治会関係者に開催案内の協力をしてもらったり、地域包括にも参加を求め、地域内の高齢者の生活の実態について情報を共有してもらうなど、協力体制を作ることができました。

推進会議を活用して

推進会議の設置当初は、事業所から多くの戸惑いの声も聞かれていました。

しかし、本会で実施している「地域密着型サービス外部評価」の結果からは推進会議を活用した地域との連携・交流の取組みが広がっていることがみられます。

災害時の緊急時の対応方法について推進会議で話し合い、消防署を講師として呼ぶことが提案され、事業所だけでなく近隣の住民にも参加をしてもらい、緊急時に支えあえるよう体制を築くこととなった、また、利用者の日中活動を充実するために、ボランティアの協力依頼をした結果、子どもたちとの交流へとつながっている事例もあります。

◇　◇　◇

このように、推進会議はサービス内容についての助言とあわせ、地域の様々な関係者で構成されていることから、地域との結びつきを強めたり、地域の様々な資源とつながるきっかけとなっています。

住みなれた地域で高齢者が安心して生活を継続できるよう事業所と地域が一体となり、運営推進会議を起点とした様々な取り組みの展開が期待されます。

（企画調整・情報提供担当）

＊小規模多機能型居宅介護
従来のデイサービス、ホームヘルプ、ショートステイ等の居宅サービスを１つの事業所で提供。これらの機能を利用者の状況に応じて包括的かつ柔軟に提供し、24時間365日の暮らしの支援を自宅にいても可能とする。小規模多機能は「利用者一人ひとりのニーズ」に沿って「自宅で生活を継続するために必要となる多様なサービス」を「一つの拠点から」「一体的・連続的に提供」するもの。
（地域密着型サービスサービス評価ガイドブック－2006年度版）
県内の開設数は、89ヶ所（平成21年８月時点）となっています。

ワンストップの支援を目指して
～かながわ犯罪被害者サポートステーション開所

犯罪被害者等の多くは、生命を奪われ、家族を失い、傷害を負わされるといった直接的な被害に加え、周囲の無理解や心無い対応による精神的被害、経済的困窮など、様々な問題に直面します。このような現状に対し、県、警察、弁護士会、法テラス、民間支援団体等がそれぞれ被害者支援に取り組んできました。

しかし、被害者等から、「必要とする支援がどこで受けられるかわからない」、「それぞれの機関に出向き、辛い内容を何度も説明しなければならない」などの声も聞かれていました。

そこで県では、犯罪被害にあわれた方が必要とする支援を一つの窓口で、一元的に途切れず提供するため、去る六月一日に、「かながわ犯罪被害者サポートステーション」を、かながわ県民センター十四階に開所しました。

サポートステーションでは、県・県警察・ＮＰＯ法人神奈川被害者支援センターの三者が常駐し、電話や面接による相談、弁護士による無料法律相談、臨床心理士によるカウンセリング、生活資金の貸付、警察・家庭裁判所への付き添いなどの支援を提供します。

また、国の機関、市町村や弁護士会などの関係機関・団体との連携により、被害者への〝たらい回し〟を防ぐことで、途切れのない支援を目指します。

（企画調整・情報提供担当）

犯罪被害についてご相談ください

〈かながわ犯罪被害者サポートステーション〉
【電話相談】045－311－4727　月～土　9：00～17：00
〈所在地〉横浜市神奈川区鶴屋町２－24－２
かながわ県民センター 14階
（日、祝日、年末年始は除く）
※従前から被害者支援に携わっていたＮＰＯ法人神奈川被害者支援センターでも相談を受けています
【電話相談】045－328－3725　月～金　10：00～16：00
（土・日、祝日、年末年始は除く）

「協働」により地域課題の解決へ
～かながわの協働を考えるフォーラム開催

行政だけでは解決できない社会の課題に対して、ＮＰＯ等のボランタリー活動との協働による解決が注目される中、県では、ＮＰＯ等と県との協働の推進を目的とする「県民パートナーシップ条例（仮称）」を検討しています。

そこで協働が地域課題解決のためにどのように有効かを探るため、去る七月二十二日に県主催による標記フォーラムが県立音楽堂で開催されました。

事例の一つとして「ＮＰＯ法人多言語社会リソースかながわ」との協働で、日本語を母語としない外国籍の患者が安心して医療が受けられるように、協定医療機関からの派遣依頼を受け、医療通訳相談窓口のコーディネーターが医療通訳スタッフを派遣するシステムの運営が紹介されました。県、事業に賛同する市町村、ＮＰＯ、医療関係機関（医師会、病院協会、歯科医師会など）で構成される運営協議会がシステムの運用にあたりますが、ＮＰＯだけの力では協議会の設置までは至らない点を指摘し、協働により、「信頼感」を得ることにつながったと副理事長の松野さんから報告されました。

第二部では、今後の地域課題の解決方法について、松岡紀雄さん（神奈川大学教授）をコーディネーターとして迎えパネルディスカッションが行われました。パネリストの一人、横浜市民活動支援センター等で長年、市民活動への支援に取組んできた川崎あやさんは、「行政のシステム上、すぐに取組むことが難しい地域の課題に、協働は解決に向けた突破口」と話し、協働の可能性を確信しています。

松岡さんからは、「社会の課題に気づき、取組んできたのは、市民である。一人ひとりが、志ある志民となり、地域社会に向けて行動してほしい」と最後にエールが伝えられました。

（企画調整・情報提供担当）

会場では地域課題に取組む団体がブースを設け、取組みを紹介していました

学び続ける介護職
―コミュニケーション重視の仕事

今月号では、異業種から転職し、現在、特別養護老人ホーム「横浜市浦舟ホーム」にお勤めの後藤雅彦さん（生活相談員、三十九歳）に「福祉の仕事と資格」について、後藤さんの担任だった湘南医療福祉専門学校の岡村英雄さんと一緒にお話をうかがいました。

○転職・働きながらの学び

平成十二年、介護保険制度が始まった年に、私は音楽関係の仕事から転職しました。特段、資格は持っていなかったのですが、昼間はデイサービスセンターで働きながら、夜間部があった湘南医療福祉専門学校（※現在は昼間部のみ）に三年通いました。卒業後は、介護福祉士として様々な仕事が経験できると聞いていた（福）横浜市福祉サービス協会に就職しました。

○資格を取り、学び続ける

「知りたい」という欲求がもともと強い私は、まず、専門学校で介護福祉士、サービス協会に就職してから通信課程で社会福祉主事、そして、介護支援専門員の資格を取得し、現在は、通信制大学で社会福祉士をめざしています。

ケアに関する専門知識や技術は働きながら少しずつ学習してきたので、どんなことでも新鮮に受け止められ、柔軟に学ぶことができました。なにより大切なことは、資格を取得した後も学び続けることだと思います。

いつか役に立てば…と自己啓発のつもりで勉強してきました。と語る後藤さん（右）と岡村さん（左）

○コミュニケーション重視の仕事

訪問介護サービス事業所に配属され、一年経って担当したのは、横浜寿町でした。そこでの業務は「介護」でも、実際は様々な「相談」が少なくありませんでした。業務を続けていくうちに「福祉の仕事ほど、ひとの生活や生死に介入する仕事はない」と感じ、積極的にコミュニケーションを取る意味がわかりました。改めて、「福祉の仕事でのコミュニケーションは奥が深い！」と実感しました。

簡易宿泊所が連なる寿町での在宅介護の経験は生活相談員の業務においても様々な影響を与えています。

○福祉の仕事をめざす人へ

誰でも新しい仕事を始める時は不安を抱えていますが、福祉の現場では新たな出会いがあり、経験した後にはやりがいにもつながる充実感が得られます。

それでも福祉の仕事は頑張り過ぎて、周囲と衝突したり、様々なストレスが溜まり、心のバランスを崩すこともあります。

私は、仕事に目標を持つことを大事にしていますが、「どうしてこの仕事を選んだのか」などを振り返り立ち止まって、自分自身を客観視することがバランスよく仕事をしていくポイントだと思います。

（福祉人材無料職業紹介担当）

PORTSIDE for the best communication 35th Anniversary
All-round Communicate
株式会社ポートサイド印刷
営業品目
●企画・デザイン・文字情報処理・印刷・製本
●ポスター・パンフレット・販促チラシ・D.M.・製品カタログ・会社案内・定期刊行物・自費出版・カレンダー・各種ノベルティ
●データ処理・入力・データベース・ホームページ・クロスメディア活用 他
営業本部・工場
〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2
Tel.045-776-2671(代) Fax.045-776-2678
http://www.portside.co.jp

神奈川県福祉研究会
（税務・会計の専門家グループ）
理　事　伊藤 正孝（☎045-412-2110）
同　桑江 郁男（☎045-402-4433）
同　辻村 祥造（☎045-311-5162）
同　西迫 一郎（☎046-221-1328）
同　林 雄一郎（☎0466-26-3351）
代表理事　八木 時雄（☎042-773-9266）

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。
京浜警備保障株式会社
代表取締役社長　岡本誠一郎
本　社　〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表　FAX (045)441-1527

でかけてみませんか

ＪＲ東海道本線・相模線で行く

「サザンビーチちがさき」

海水浴＆散歩（茅ヶ崎市）

太陽がまぶしい夏。今回はＪＲ茅ヶ崎駅で下車し、湘南の海を満喫しに行きましょう。サザンビーチちがさきは茅ヶ崎のシンボル「えぼし岩」を望む海水浴場。近くの海岸沿いにはボードウォークが整備され、潮風を感じながらの散歩も楽しめます。

今月は ⇨ NPO法人
ままとんきっず がお伝えします！

1993年、子育て中のおかあさんが集まり、子育てタウン情報誌「ままとんきっず」を発行。子育てに関するメール相談、親子が集うサロン運営、各種講座の開催など、子育て支援活動を展開。15周年を迎えた2008年には「第２回かながわ子ども・子育て支援大賞」を受賞。情報誌・単行本の発行物は30冊を数え、一部は海外でも翻訳出版。最新刊は「ままとんきっず17号　幼稚園特集2010年度版」。
〈連絡先〉川崎市多摩区菅稲田堤３－５－43
TEL／FAX：044－954－8662

頼りになる駅の観光案内所

茅ヶ崎駅には、改札を出た右手に「茅ヶ崎市観光案内所」があります。観光情報を気軽に尋ねられるほか、サザンビーチちがさきの「海の家割引券」を手に入れられます。

海水浴で海の家を利用する場合は、全店共通で大人1500円⇨1200円、小人800円⇨640円になるので、立ち寄ってから行きましょう。

駅構内は各ホームと改札階、改札階と南口・北口をつなぐエレベーターを完備。改札階の改札内は多目的トイレがあり、オムツ替え用ベビーシートが備えられています。

安全・安心・快適な海水浴場

サザンビーチちがさきは駅南口から徒歩20分。タクシーまたはコミュニティバス「えぼし号」を利用すると便利です。えぼし号はバス停「茅ヶ崎駅南口」から毎時８分または38分発の「中海岸南湖循環市立病院線」に乗り、「サザンビーチ入口」で下車。目の前に海が広がります。

南口エレベーターを降りてすぐのところにえぼし号のバス停あり。乗車時間は約10分

サザンビーチちがさきの海は遠浅で、波がおだやか。８時30分から17時まで遊泳でき、監視塔には監視員、救護所には看護師が常駐しています。また、砂浜の清掃や水質の管理など、衛生面にも配慮。安全・安心・快適な海水浴場を目指しており、子ども連れにとって、なにより も嬉しい環境が揃っています。

仮設の公衆トイレや有料の公衆シャワーが設けられているとともに、海の家が９軒並んでおり、休憩所、更衣室、トイレ、温水シャワーなどの設備が整っています。

仮設の公衆トイレは車椅子用トイレが１ヶ所用意されていますが、オムツ替え用のベビーベッドなどを備えているトイレはないので、赤ちゃん連れの方は海の家を利用するのがラクでしょう。

天候がよければ東に江の島、西に富士山も眺められる、サザンビーチちがさき

海岸沿いのボードウォークを散歩

海水浴場のオープンは８月31日までです。サザンビーチちがさきから江の島方面へ少し歩いた海岸沿いにはボードウォークが整備されているので、海水浴の季節が過ぎても、キラキラと光る海からの潮風を受けて散歩すると気持ちがよいでしょう。開放感いっぱいで、子どもたちも喜びます。

インフォメーション

■茅ヶ崎市観光協会
電話　0467－84－0377

■茅ヶ崎市コミュニティバス　えぼし号
運賃　大人150円、小児（小学生）80円
※車椅子の乗降可。ベビーカーは折りたたんで乗車。

◆ご意見・ご感想はkikaku@knsyk.jpまでお寄せください。

今月の福祉資料室

「福祉資料室」をご利用下さい！
◆利用時間：月～金（第３金曜日、祝日、年末年始等を除く）の９時～17時
◆問合せ：☎045－311－8865

私のおすすめの１冊

南足柄市ボランティア協会　会長　大石恵子

タッピング・タッチ～こころ・体・地球のためのホリスティック・ケア

中川一郎　著

タッピング・タッチとは、指先の腹のところを使って、軽く弾ませるように左右交互にやさしくたたくことを基本とします。シンプルでホリスティックなケアの技法です。心と体の緊張をほぐし、心身ともに健康であろうとする内なる力に働きかけ、本来の明るさや優しさを取り戻すことによって、みんなで仲良く生活することの楽しさを思い出させてくれます。病院ボランティア会ランパスの研修で中川先生から教えていただいた技法。ぜひ広めていきたいものです。

2004年９月刊
定価2,100円（税込）
朱鷺書房

図書

★知の福祉力（市川一宏著、人間と歴史社）
★学校ボランティアコーディネーション～ボランティアコーディネーター必携（長沼豊編著、筒井書房）
★認知症のひとの安全な介護生活から学ぶ（山田滋著、ブリコラージュ）
★福祉専門職のための権利擁護支援ハンドブック（PASネット編、ミネルヴァ書房）
★ストレングスモデルのケアマネジメント～いかに本人の意欲・能力・抱負を高めていくか（白澤政和編著、ミネルヴァ書房）
★よくわかる！新しい介護保険のしくみ　平成21年改正対応版（長谷憲明著、瀬谷出版）
★ソーシャルワーク実践事例集　地域包括支援センター（日本社会福祉士会編、中央法規）
★「生活支援」の視点に基づく介護福祉士実践事例集（岡山県介護福祉士会編集、中央法規）

資料

★障害者権利条約の国内履行を推進するシンポジウムの開催事業
総合リハビリテーション研究大会in広島～手と手を…ひろしまからの発信（日本障害者リハビリテーション協会）
★京都府社協アクションプラン～3年間の挑戦（京都府社会福祉協議会）
※約５万２千冊が検索できる蔵書検索もご利用ください！
http://www.knsyk.jp/tosyo/

社会福祉施設総合損害補償
しせつの損害補償
ホームページでも内容を紹介しています。
http://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1
施設の業務中事故賠償補償
①基本補償
○基本補償（A）は、法人業務を包括的に補償
○見舞費用付補償（B）は、賠償責任のない場合の見舞金も補償
○オプション・医療事故補償も充実
②個人情報漏えい対応補償
○個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合（おそれのある場合を含みます）に補償
○クレーム対応費用、見舞品購入費用等を補償

プラン2
施設利用者の傷害事故補償
①入所型施設利用者の傷害補償
②施設送迎車搭乗中通所型施設利用者の傷害補償
③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3
施設職員の災害事故補償
①施設の労災上乗せ補償
②施設職員の傷害事故補償
③施設職員の感染症罹患事故補償

プラン4
施設の什器・備品損害補償
○施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
○施設の現金等も補償

◆加入対象は、社会福祉法人等で運営している社会福祉施設です。
●全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
●団体契約のため有利な補償と割安な保険料（掛金）
●迅速で丁寧かつ適正なお支払い

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（「賠償責任保険」「傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」）です。
●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします

団体契約者　社会福祉法人　全国社会福祉協議会
取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667 FAX：03(3581)4763
〈引受幹事保険会社〉株式会社 損害保険ジャパン

〈SJ08-11763, 2009. 02. 25〉

子どもが安心して過ごせるまちづくり
～船越小学校学童見守り隊（横須賀市）

子どもが地域での犯罪や事件に巻き込まれないために、登下校、校内の安全確認などの活動が行われています。地域の大人による身近で安心な「見守り活動」は、子どもの成長を育むためにどのような役割があるのでしょうか。

今号では、横須賀市船越町で活動する「船越小学校学童見守り隊」（平成十九年安全・安心まちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰受賞）から考えます。

子どもたちを危険から守る

横須賀市船越町は、人口約九千二百名、三千八百世帯で、公立の小学校、中学校がひとつずつ、田浦警察署が地域内にあります。

平成十六年四月に、子どもに対する凶悪事件が全国的に多発したことを受け、市内でも先駆けて、住民の有志が、小学校の登下校時の子どもへの挨拶活動、校内の見守りを行う「船越小学校学童見守り隊」（以下、見守り隊）を発足させました。

船越地区では、今から十年程前に、地域の活性化に向けて、各町内会（一丁目から八丁目）の有志があつまり「船越有志の会」（以下、有志の会）を設立し、以来、地域全体の祭事を企画し、住民の交流を促してきました。そんな折り、子どもの安全を守るために何かできないかと、「見守り隊」の発足を考え、小学校に提案したところ、快諾を得ることができました。

小学校の一室を詰所にし、登下校時と校内の見守り活動を、一日四組（八時から十時、十時から十二時、十二時から十四時、十四時から十六時）の、一組二名体制で行っています。

見守り隊隊長の千秋（せんしゅう）昭男さんは、「毎日の登下校の見守りや、常に誰かが校内をパトロールすると外部の人間は警戒するため、いるだけでも効果があります」と言います。

隊員の募集は、「有志の会」メンバーの口コミと、連合町内会の協力で、ポスターの掲示や回覧板を活用しました。元々、会自体も町内会とのつながりが強く、当初から百名を越える隊員が集まりました。現在の隊員は六十代から七十代中心に構成され、百四十名に上ります。

「周りからは隊員を多く集める工夫を聞かれることがありますが、小学校は誰でもつながっていて、自分、自分の子ども、孫、どの世代にも関わりがあるため、学校を守りたいという気持ちが強いです」と小学校の〝身近さ〟を話します。

普段から見守ることが大切

平成十七年からは、子どもの連れ去りを防ぐため、下校時間帯にあわせて玄関先の掃除、庭の手入れ、近くへの買い物、散歩を行うなど日常の範囲内でも「自主パトロール」を行っています。

千秋さんは、「学校内の見守りはいるだけでも効果があり大切ですが、同じくらい大切なのは日頃から子どもたちを守る目です。隊員には当番以外の日でも気にかけてほしいと伝えています」と、見守りを日常生活でも自然とできることが大切と感じています。

校内でも隊員が見守ってくれるから安心です

「おはようございます」と小学校の朝は、隊員と子どもたちの元気な挨拶で始まります

顔がわかり、あいさつが生まれる

活動当初は「船越小学校の子どもを凶悪事件から守ること」を第一に掲げ活動をしていましたが、思いがけない効果もあらわれています。

見守りを始めた頃は子どもたちからの挨拶はありませんでした。危険にあわないように身を守るため、知らない人に対して挨拶をしてはいけないと教えられてきたそうです。しかし、地道な毎日の活動から、隊員と子どもたちはお互い顔がわかるようになり、挨拶が相互にできる関係へと変化していきました。小学校の側としても、何気なく交わす〝挨拶〟に子どもの成長を感じています。

活動当初に関わりのあった小学生は、現在は中学生になっていますが、近所で顔を見かけると、挨拶できる関係は継続し、隊員はその成長を身近な大人として見守ります。

また、住民からも、下校時に自主パトロールで地域を歩いていると〝ありがとうございます〟、〝ご苦労様です〟と声をかけられ、子どもの見守り活動の延長から、地域全体が挨拶をできる町へと成長していっています。

活動を始めてから五年が経過し、「活動のマンネリ化が課題ですが、継続していくことが大事です」と、子どもの成長を確信しながら気負わず活動が展開されています。

◇　◇　◇

このように、地域の大人たちによる見守り活動は、防犯という視点に限らず、子どもと親や学校の先生以外の「地域の大人」と接する機会が作られ、そのことによりお互いが顔の見える関係を築くことができ、安心して子どもたちが成長できるまちづくりへとつながっていきます。

（企画調整・情報提供担当）

ひと・ネットワーク 201

子育て支援は人財育成

ＮＰＯ法人りんぐりんく
理事長　青柳広美

私たちは、平均年齢38歳という横浜市都筑区で、「人と街と地域をつなぐ」をキャッチフレーズに、子育て支援の活動をしています。

保育士である私が、様々な子どもに触れ、「人」という「財産」をはぐくむ子育てを、親・地域住民・企業・行政、それぞれの輪（りんぐ）が繋がり（りんく）一体となって支えていかなければ、日本の未来が危ないと感じたことが活動を始めたきっかけです。

活動は、妊娠期から乳幼児までの親を支える「親子の広場」の運営と、青少年と地域の多世代との交流を促す「つづき遊び隊」が主となっています。それに加えて、地域清掃や商業地区振興会のイベントにも積極的に参加し、多くの世代や地域住民、団体との信頼関係を築きながら、子育て支援の重要性をＰＲしています。

子育ての結果や評価はすぐには出ません。子どもたちが自分で問題を見つけ、解決する方法を考えられる・他者との折り合いをつけながら自分の主張ができる・失敗を恐れず夢に向かってチャレンジできる・弱者を気遣いながら社会を支えられる、そんな大人になった時、成果が出たといえるのではないでしょうか。

そのために、大人がすぐに口出しをせず子どもたちを「見守る」勇気を持ち、知識だけではなく「心の教育」を重視する仕組みづくりを、自分たちも楽しみ笑いながら、気負わずに続けていきたいと思っています。

第四十五回関東ブロック老人福祉施設研究総会・第八回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会開催

かながわの高齢者福祉サービスに携わる人々が一堂に会し、知恵や工夫を活かした実践の成果等を学びあうことを目指して毎年開催している「高齢者福祉研究大会」（以下、研究大会）。今年度は、関東ブロック老人福祉施設研究総会の本県開催に伴い、同会との合同大会として、関東甲信越地域十一都県の高齢者福祉施設職員等約二七〇〇名の参加を得て、去る六月三十日、七月一日の両日に渡りパシフィコ横浜にて開催しました。

今大会の研究発表数は十六テーマ二三四題。例年の倍近い発表数がありましたが、これまでの大会で培った経験を活かし、無事に成功裏に終わることができました。

今年で第八回を迎えたこの研究大会ですが、その始まりは介護保険制度導入を境に、急速に施設間の情報発信や交流が失われたことへの危機感からでした。高齢者福祉・介護分野を発展させる原動力は、施設職員自らの探求心であり、その成果を発表する機会の創設が本会老人福祉施設協議会で提案され、高齢者福祉・介護分野に科学的な根拠の構築を目的に掲げ、どの施設からも応募でき、互いの研究成果を公開する学会形式の大会を開催することになりました。そこでこの趣旨に賛同する施設関係者で実行委員会を立ち上げ、二〇〇三年一月に初の研究大会を開催、介護福祉士養成校の協力等もあり年々参加者は増え、これまでの発表は九七三題に上ります。

この取組みは「職員の意識や姿勢が変わった」「課題をチームや地域関係者で共有できるようになった」など施設内外への波及や、他県でも同様の大会が開催されるなど、ひとつのソーシャルアクションのように活動は広がっています。

大会が大きくなるにつれて目的の共有化など課題点もあります。実行委員会では合同大会を節目に、これまでの総括と、アンケート結果等をもとに、今後の大会について再構築を図っていく予定です。

（社会福祉施設・団体担当）

第四十五回関東ブロック児童養護施設研究協議会開催報告

去る七月十六日（木）・十七日（金）にわたり、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズを会場に「第四十五回関東ブロック児童養護施設研究協議会」が開催され、児童養護施設関係者約二百名が参加しました。

企画・運営は施設部会児童福祉施設協議会に実行委員会を設けて行ないました。

虐待相談件数の増加や、被虐待児や発達障害の疑いのある子どもなど、対応の難しい子どもが多く見られる中、その子どもの受け皿となる児童養護施設は混乱を極めています。これを受け「社会的養護体制の質と量の確保に向けて」をテーマに、第一日目は国・各都県行政の社会的養護体制の整備状況についての報告会を、第二日目は「子ども達の入所から退所のケア～援助プロセスについて」と題したシンポジウムを行いました。

報告会では、各都県より施設の新設や情緒障害児短期治療施設（以下、情短）の整備、里親の増員等が報告される一方で、職員配置基準の問題、情短が未設置の自治体からは、その役割を児童養護施設が担う厳しさが聞かれました。

シンポジウムでは、伊達直利氏（旭児童ホーム・本県）をコーディネーターに、児童養護施設長や行政関係者等からの発言を基に議論を深めました。

職員の質の確保に向け、現状に則した養成機関・カリキュラムの整備が必要であることや、児童相談所には、入所時だけでなく退所まで施設と協働した援助が求められていること等の意見がありました。

社会的養護を必要とする全ての子どもが十分な援助を得られるよう、関係機関との連携とともに施設からの訴え、情報を発信していくことの必要性を再確認をした協議会となりました。

（社会福祉施設・団体担当）

Information

役員会の動き

◇**理事会**＝7月22日（水）①正会員の入会申込②平成21年度一般会計補正予算（案）

◇**新会員紹介**

【経営者部会】（福）輝雲会、（福）横須賀市社会福祉事業団

【施設部会】児童養護施設手まり学園、サンキッズ大磯、児童養護施設杜の郷、介護老人保健施設三田あすみの丘、箱根町立湯本保育園

聞いてみよう！福祉・介護の仕事

福祉施設から毎回2名の職員をお招きし、福祉の仕事を目指したきっかけ、日々の仕事から感じるやりがい、就職活動の体験談などを語っていただきます。

◇**日時**＝毎月第1土曜日（9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、1月9日、2月6日、3月6日）。いずれも13時～16時

◇**会場**＝かながわ県民センター13階（2月6日は「福祉の仕事フェア」会場内（県立保健福祉大学）にて開催）

◇**対象**＝福祉・介護の仕事に関心のある方ならどなたでも（福祉・介護分野への就職を考えている方・関心のある学生、ハローワーク職員、各大学等就職課担当者など）

◇**定員**＝各回50名

◇**参加方法**＝規定の申込用紙にてファックス等でお申し込みください（事前申込優先・当日受付も可）

◇**参加費**＝無料

◇**申込・問合せ**＝本会かながわ福祉人材センター

☎045－312－1121（代）

二〇〇九年度社会福祉士実習指導者講習会開催のご案内

厚生労働省からの委託を受け相談援助実習を行う実習指導者の資質向上を目指して実習指導者講習会を開催します。

◇**日時**＝平成21年12月19日（土）、20日（日）（2日間）

◇**会場**＝ウィリング横浜（京浜急行・横浜市営地下鉄「上大岡駅」下車徒歩3分）※神奈川県会場の他、全国23会場でも実施。

◇**受講資格**＝次の①と②を満たす方。①社会福祉士②現に実習指導者として従事しているかもしくは実習指導者になろうとする者

◇**受講費**＝日本社会福祉士会会員1万円、非会員1万5千円（入会手続中は会員扱い）

◇**受付期間**＝10月6日（火）～20日（火）

◇**申込方法**＝専用申込書使用、郵便またはFAXで受付

◇**資料請求・問合せ**＝（社）神奈川県社会福祉士会事務局

☎045－317－2045

寄附金品ありがとうございました

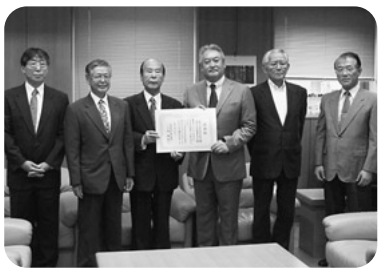
【一般寄附金】▽脇隆志

【子ども福祉基金】▽CFS絆の会

【ともしび基金】▽（株）湘南国際村協会▽神奈川県監査事務局総務課▽小さき花の園▽富士シティオ（株）FUJI相模大野・根岸橋店▽（有）葛の湯▽内田靖夫▽内田輝光▽太田雄造▽沖山英子▽小田猛夫▽菅井良幸▽関野光枝▽高橋民雄▽高橋輝雄▽名取岐

【指定寄附金】▽神奈川県遊技場協同組合・神奈川福祉事業協会（計一、五〇三、五六三円）

【寄附物品】▽神奈川県定年問題研究会▽新田輝一（敬称略）



去る7月28日、県遊技場協同組合関根理事長（左3番目）、神奈川福祉事業協会平川会長（左4番目）に、本会林会長より感謝状が手渡されました

地域福祉（ともしび）推進助成金　申請受付中！

15万円以下

12月末までの毎月（随時申請受付）

16万円以上（限度額あり）

10月末迄

本会ともしび運動推進担当

☎045－312－1121（内線3201）まで、お気軽にご相談ください！

印刷の事ならおまかせください
パンフレット・冊子・封筒・名刺・カタログ・ポスター
お気軽にご相談ください！
株式会社 あんざい
横浜市港南区下永谷3-24-29
TEL 045－822－8497
FAX 045－824－1303
mail：anzai@p-anzai.jp

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作
KKI きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所
〒238－0004 横浜市金沢区福浦 2－1－12
営業部 TEL045(785)1700㈹ FAX045(784)6902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

かながわ HOT 情報

心のドアをノックして

七沢会・大和（大和市）

何の不自由もない日常生活に、ある日突然襲いかかる病、「脳卒中」。発症により、多くの方が障害を抱えることになります。

今回ご紹介する七沢会は、そんな方々が「学歴や職歴、そして病気・障害の重さを比較をしないこと」を合言葉に、仲間との繋がりを深めながら、地域で活き活きと活動をしているグループです。

苦悩を共有し合いながら

「私も一時は心を閉ざし、人に会うことも外に出ることもしたくなくなりました。でも同じ苦悩を味わったからこそ、お互いの気持ちを理解し合える仲間と出会え、障害があっても、自分らしく生きていけることを知りました」

代表の屋敷昌司さんは、平成十年に三人の仲間と七沢会を発足した当時を振り返ります。

徐々に増えてきた会員数は、現在八十名を超え、韓国語教室やパソコン教室、宿泊旅行、散策、卓球、ダーツなど、文化・スポーツ面で自分たちがやりたいことにチャレンジしています。ある会員は「片麻痺の状態で、毎日散歩を続けていたら、月を二周するほどの距離に到達していた」と皆で、その喜びを分かち合いました。

生きる力と希望を育む場

七沢会では、出逢い・悩み相談・生きがい作りの「場」になることを目的の一つとしています。

会報を作成する三輪千潮（ちしお）さんは、家族を支える主婦としての自信を失っていましたが、七沢会との出会いからその悲しみを乗り越えた方の一人です。

「七沢会に初めて参加した時は、そこにいるだけで自然と肩の力が抜け、安心した気持で満たされました。継続的に七沢会に参加して、ありのままの自分を受け入れ、前向きに生きていこう、と思うことができるようになりました」

そう話す三輪さんをはじめ、七沢会の皆さんからは、生きる力と希望が伝わってきました。

最後に屋敷さんは、「地域には、脳卒中による障害を受け入れられず、心を閉ざしてしまっている方が大勢います。七沢会の活動を広げていきながら、その方々の心のドアをノックして仲間として迎え入れたい」と七沢会の想いを笑顔で語ってくださいました。

（ともしび運動推進担当）

七沢会懇談会　（大和市生涯学習センターにて）

連絡先：大和市桜森１－２－20　（代表：屋敷）
☎046－264－2149　　FAX：046－264－2149
Email：y-yasiki@wc4.so-net.ne.jp

－社会福祉施設の設計監理－

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771／FAX03(3449)1772
URL：www.yasue-sekkei.co.jp
E－mail：yasue@yasue-sekkei.co.jp

特別養護老人ホーム（鎌倉市）

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください

発行日　2009年（平成21年）8月15日　毎月1回15日発行　発行所　〒221－0844　横浜市神奈川区沢渡4番地の2
社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会　TEL045－311－1423　FAX045－312－6302　編集発行人　米倉孝治　印刷所　株式会社　神奈川機関紙印刷所